

かくいふなり、重言にあらす、

〔半日閑話五〕山の根と云は、頂上の事也、富士の根も同じ、麓の根に、古歌など詠たるはいかゞ、

〔枕草子一〕峯は

ゆづるはのみね あみだのみね いやたかのみね

〔奥義抄上ノ末〕出萬葉集所名 普通名所不注

峯みね付たけ嵩たけ

あをねがみね みよしの、いまきのみね ゆつきがだけ ふじのたかねしるたへの よしの、たけ いこまのたけ

〔八雲御抄三上儀〕峯 つくはね 又在名所 あまそき やたけ 万峯 たけとも 詠 たかね峯なら

とのたかき也、さいわいのみ 俊抄

〔八雲御抄名所〕嶺

おほまみね 大和、万、あをねが 同、万、みよしの、 菅席 たかまとの 同 をぐらの 大、万、い

まきの 紀、万、いぶきの 家房の 郷 新古今 よしの、 大 たつたの 同 つくはねの 常、陽成御歌、總

也、 かさこしの 家信 經 をぐらの 是は 前さのみかたの 御事を ぐら、 たかちほのくしふる みね 日本 是は 紀

りあまつひこの いた 略

根

いこまたかね 大、万、 雲か、 神さぶる こしのしらね 越前 後撰 通俊之の 山なり、 ね ふじのた

かね 駿、万、 飛鳥もと びもの ぼらす 神は 石花梅と 名付て 我國を 守神也、 國さが みね 相模、万、さが み

り、よめ つくはね 常水を 總 紅葉の名也、 さゆはりの 花 いかほね 上野 万、いかほねるとも、 たこの

ね 同 かひがね 甲ら ねと、後撰、 あひつね 奥 万、三ヶ國の際也、 あた、らね 同 つしまのね